

JICA at a Glance

～JICA世界保健医療イニシアティブの2年間の主な実績～

JICAは、コロナ禍を乗り越え、新たな感染症にも強い社会の実現を目指し、「JICA世界保健医療イニシアティブ」を掲げ、これを強力に推進しています。この推進を通じて、治療・警戒・予防を3つの柱として各国の保健医療システムの強化に貢献しています。



JICA世界保健医療
イニシアティブの
詳細はこちら

柱1 診断・治療体制の強化



22か国、約2億人に裨益：

病院の整備・拡充を支援（2020年4月～2022年6月）

11か国・2500人以上の現地の

医療関係者と日本国内の専門医を通信システムでつなぎ、
集中治療の研修を提供（2021年5月～2022年6月）

柱2 感染症研究・早期警戒体制の強化

ガーナ全国の8割のPCR検査を

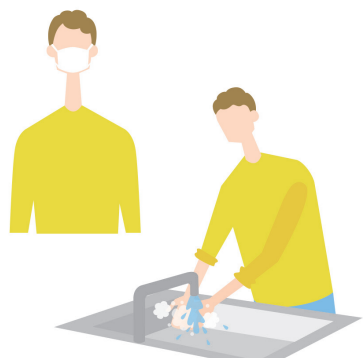
長年の協力関係があるガーナ野口記念医学研究所が実施
（2020年3月～6月）



4施設から403施設へ、

国立衛生疫学研究所への協力を通じて、
ベトナム国内のCOVID-19検査の認証検査機関が増加（2020年2月～2022年6月）

柱3 感染症予防の強化



64か国の感染予防体制を

感染症対策資機材の提供を通じて強化（2020年度～2021年度）

61か国、延べ約3億人に

手洗いの大切さを普及（2020年9月～2022年3月）

エルサルバドル病院への支援

エルサルバドルは、2020年の感染拡大当時、主要病院のICU病床使用率が80%を超えていました。JICAは、災害発生後の迅速な復旧支援を目的に締結していた借款契約を活用し、エルサルバドル病院の整備に必要な資金協力を速やかに実施。同年6月下旬には1千床規模のCOVID-19専門病院として開院し、全国各地から搬送されてくる陽性患者を全員受け入れ、重症患者への治療にもあたりました（2020年7月～2021年12月の累計入院患者数：1万1千人超）。



エルサルバドル病院外観

日本モンゴル教育病院への支援

無償資金協力によって整備した日本モンゴル教育病院（2019年完工）に対し、総合病院として質の高い医療サービスが提供でき、かつ、モンゴル初の教育病院として機能するよう技術協力を実施しています。感染制御チームによる院内巡視を通じ院内感染対策を徹底するなど、COVID-19院内クラスター防止において他の病院の模範となる成果を上げています。



日本モンゴル教育病院内の検査の様子